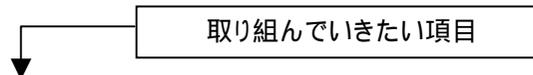


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「個人を尊重し、安全で安心できる楽しく美しい共同生活体を、地域を含めた和をもって確立する」という事業所の理念をかかげている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ホームの運営理念を、玄関・事務所・居間などに掲示し、申し送り時など職員に確認し理念の実践に向けて取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入居の際に家族にはきちんと説明をしている。(玄関に掲示してあるので見てはいると思う)	時間が経てば忘れてしまうので、再度、理念の確認をおこなって理解してもらおう。地域の人々にも浸透するように働きかけていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物時、近所の人と挨拶をしたり話をしたりしている。気軽に立ち寄るまではいかない。	普通の民家なので分かりづらいので、ちい運営推進会議などでアピールしていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入しており、地域の行事等に参加し、交流を深めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者に貢献できないか話し合っているが実施していない。</p>		<p>地域住民に役立つように、介護相談や介護教室の開催が出来ればと話し合っている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価票の作成は職員全員で実施し業務の見直しやサービスの質の向上に活かしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は実施していない。</p>		<p>資料・検討内容・構成委員は選出しており、日程を調整できれば開催できる。(意見・要望をサービスの質の向上に役立てたい)</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは業務の相談や、外部研修の紹介などをしてもらって連携を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>第6ブロック・グループホーム連絡会で勉強会を実施しており、理解を出来るよう職員を参加させている。必要な人には活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加して理解を深め、虐待防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約の際には、利用者・家族の不安や疑問を訪ね十分な説明をし理解・納得してもらっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部の苦情相談窓口は、茂原市の高齢者福祉課が行っている。内部の相談窓口は管理者で、利用者は職員に直接不満や苦情をあらわしている。(議論して、見直している。)</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に利用者の生活状況や健康状態などの報告を行っている。家族が遠方の人は電話や手紙などで報告をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に家族等に意見・要望・不満などの確認を行っている。玄関に意見箱を設置しており、苦情や相談等が出た場合、会議などで話し合い見直しを図っている。(外部は茂原市の高齢者福祉課である)</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時、意見や提案を聞き職員の意向・希望に沿うように努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況変化に応じ、職員を確保できるように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は異動や離職者もなく、馴染みの関係や信頼関係が築かれていると思われる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指し、研修には積極的に参加できるように促している。(各個人で資格取得の勉強をしたりして、日々、自己研鑽し努力している)		認知症の理解のため、書籍をよむように促している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第6ブロック・グループホーム連絡に参加しており、会議・勉強会などで情報の意見交換をしたり、他事業所の良いところを取り込んで質の向上に役立てている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見や要望等を聞き、少しでもストレス解消できるように努めている。		事業所外でもストレスを発散できる機会を作っていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や実績、勤務状況は把握している。		職員が長く働いてもらえるよう、もっと向上心を高められ、資格などを取得した場合資格手当の支給などの導入を経営者と協議し、努力・実績の評価制度を提案していきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知度にもよるが、本人が困っている事や要望等を訴えられる場合は聞いている。(訴えられない場合は家族に相談している) 業務優先や手のかかる利用者中心となってしまう、個々の要望を聞き入れられない状態である。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族には入居前、見学に来られた時に相談や困っている事を聞き、利用(入居)の際にはこれからの不安や要望を聞いている。面会時にも随時、相談に応じている。(ケアプランにも反映させている)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に相談を受けた際には、本人・家族のニーズを把握し見極めて支援できるように努めている。(他のサービス利用もある事も示唆している)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に、家族は納得しているが本人の意思が重要なので本人に体験入所してもらったり、見学に来てもらい利用者が安心・納得してからサービスを開始している。始めはとまどう事ばかりなので、声かけなどを中心に不安を軽減し、少しずつ慣れるように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築けている。(人生経験が豊富なので、知識や知恵などを学び、利用者と職員と一緒に支えあっている)		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築けている。(喜怒哀楽を一緒に共有し、利用者を支えている)		ホームでの行事に積極的に参加してもらえるようにしていきたい。(家族の都合にもよる)
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している。		遠方の家族には、近くの家族と比べると面会できる機会が少ないので、電話や手紙などのやり取りを行ってきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等との関係は築けている。		本人に馴染みのある方の来所機会を増やせるように、家族と相談していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	断ち切らないようにはしている。（気軽に立ち寄ってくれるように努めている）		契約終了後もホームの活動など手紙やおたよりなど、やりとりを行い関係を築いていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めている。（意思疎通・コミュニケーション・訴えが困難な認知度の重度の方に関しては、家族の意見を参考にして、その人本人だったらどうするか？どうするだろうと考えながら検討している）		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らしぶりや生活歴・趣味・生い立ちなどをフェイスシートやアセスメント表に記入して把握している。（そのつど、家族に聞いたりしている）		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や希望等、職員からの意見などフェイスシートやアセスメント表を活用し介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリング・再アセスメントを実施し、見直している。変化が生じた場合、家族・職員など必要な関係者と話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入してある日々の様子などを参考にし、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同事業所にあるデイホームやグループホームに気分転換をかねて外出したり、通院の支援や隣の床屋、近所の美容室、家族との外食など支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによるコンサート演奏会やフラダンス、マジックショーなどを行っている。消防署には、防災点検の立ち入り調査を行ってもらっている。		自治会地域の小学校のバザーや清掃などの参加。(参加できる時は参加している) 今後、民生委員や警察の協力を図っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	第6ブロック・グループホーム連絡会で他のサービス事業者との話し合いや、今年6月にグループホームのケアマネ会議を立ち上げ情報や意見の共有を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者で1名、成年後見人制度を活用している。		成年後見人制度を希望している家族がいるので市や地域包括支援センターなどに協力を求めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	良い関係を築きながら支援している。(健康診断・通院・往診・急変時にも対応してくれている)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関(精神科)との良い関係を築きながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営者が看護師で近所に住んでいて、急変時にはすぐ対応してくれる。看護師が非常勤で1名週一回勤務して健康管理をおこなっている。同事業所のデイサービスの看護師も必要に応じ対応してくれる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には、病院関係者・家族と情報交換し早期退院できるように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方は、入居契約の時から家族等で話し合ってもらい、意向や希望を確認している。(緊急の場合の処置等も確認している) 全て文書化してある。		随時、家族と相談していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その人らしい最後をむかえられるよう、主治医・看護師・家族・職員のチーム一丸となり環境を整え看取りを行った。(会議を開催し、医療処置・介護技術・緊急連絡など)		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からホーム・ホームから病院・病院からホーム・ホームから他施設など情報交換を十分に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報事務所に保管している。利用者に対しては、理念でもある個人を尊重して、「介護をするのではなく」「介護をさせていただきます」という意識で対応し支援している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が意思決定・希望を表せる方は納得してもらって支援している。認知度によっては異なる場合もある。(声かけし、どうしたら良いのかなど訪ねている)</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日のホームの流れ(日程)みたいなものはあるが、一人ひとりのペースや希望に沿うようにはしている。(人員基準最低ラインの時は、ゆとりがなくなってしまう業務中心になってしまっている)</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近隣の理美容店を利用したり、家族が連れて行ったり、家族がカットしてくれたり、本人の希望に沿うように支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、後片付けを職員と一緒にしている。</p>	<p>外食の機会をもっと多くし、利用者の好みや要望に応じていけるよう努力したい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の好みに合わせたものを一人ひとりに提供は出来ない。(一部は出来ている)</p>	<p>飲み物、おやつなど好みに合わせられるようにしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを把握して、時間帯でのトイレ誘導をしている。日中はなるべく、下着を着用するようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日と時間帯は決まってしまうと、利用者の体調に合わせて入浴支援を行っている。週3回を目標にし、季節に応じて夏はシャワー浴、冬は足浴や清拭を実施している。入浴を拒否する場合は、声かけをし強制はしていない。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>支援している。(夏場、冬場の温度・湿度の調節・日中の適度な運動など)</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家事(お皿洗い、お皿拭き、洗濯物たたみ・掃除など)ADLに応じて役割を持たせ職員と一緒に共同で行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は本人のお金を持つ事の大切さは十分理解しているが、利用者の中にお金に物凄く執着心が強い人がいるので、お金の事で毎日他入居者や職員・家族に対して怒りトラブル発生している。(お金を持たせた時もあったが同様である)金銭管理は職員が行っていて必要に応じて使えるように支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は、散歩に行ったり、ドライブしたり、希望の応じては買い物にでかけたり、定期的に地域や他施設のイベントに参加している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年間の行事計画を作成している。(家族の中には、外食や外泊に連れ出してくれている)</p>		<p>なかには、預けっぱなしで、「関わりたくない」・積極的でない家族もいるので、そういう家族にも呼びかけてはいるが、家族間の問題なので難しいところもある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは出来るようにしているが、電話に関しては家族からはかかってくるが、本人からは(電話をしても良い・一切しないしてほしいなど)家族によって対応が異なる。		同上(どこまで踏み込んでよいのか分からないが、関係修復を少しでもしていきたい)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間・曜日など制限はないので、気軽に訪問してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車の通りが多いのと、出てすぐスロープになっているので安全のため玄関だけは鍵をかけている。(希望に応じ職員が開錠して、声かけや見守りを行っている)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	手すりや段差解消・服薬時の名前の確認・防火知識の勉強など事故防止に取り組んでいる。(ヒヤリハットの記入など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習会に参加したり、通報訓練の実施、看護師による応急処置の勉強会をおこなっている。		看護師からの応急処置等の指導を増やしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している、近隣の方の協力を得られるようにしている。(地域の消防に指導、協力を依頼している)		防火規程は作成済みだが、H21年4月までに防火管理者の選任と消防計画を作成しなければならない。夜勤帯を想定した避難訓練の実施
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に状況説明し、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	出来ている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、牛乳やヨーグルトなどの乳製品・水分摂取に努めている。毎日いきいき体操で体を動かしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には、本人の意思に任せてあるが、声かけをして歯磨きをして貰うようにしている。ひとりで出来ない場合は介護者が見守るか一部介助している。(就寝前の入れ歯洗浄)いやがる場合は、強制していない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分量など個別に記録している。野菜、魚中心に栄養バランスに努めている。(月に一度体重測定を実施している)		カロリーを計算できるようにする(状態に合わせて)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年、全員予防接種をうけている。インフルエンザ流行時、風邪をひいている場合は面会はひかえてもらっている。定期的に受診したり、職員の手洗い、うがいの徹底を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、調理器具・ふきんは除菌・漂白消毒している。食材は賞味期限ぎれは使用していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植えたりして、利用者・家族・近所の人が見れて楽しめるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、利用者と職員と一緒に作成したぬり絵や創作物が飾ってある。浴室の脱衣所やトイレには、カーテンを引きブライバシーの配慮に努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合う仲間同士で話したり、歌を唄ったりして思い思いに過ごしている。(基本的には、居間と食堂にすることが多い)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り思い入れのある使い慣れた物を活用してほしいと家族には説明・相談はしているが新しい物を買って来てしまう。		生活感のある居室作りに取り組んでいきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度・湿度の調整には、気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりなどを利用者の状況に応じて設置し、安全面にも配慮しつつ残存機能を活かせるように支援している。		機能訓練のため、あえて段差を解消せず脚を上げる訓練をしている。(2階の階段昇降もその一環である)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時間帯や日によつて混乱や失敗の度合いは違ってくるが、自尊心を傷つけないように、声かけし見守りをして分からないことや出来ないことだけ一部介助している。(トイレの場所の説明や表示・大きめの時計・カレンダーの設置など)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺はとても狭く、ベランダは洗濯物や布団などを干してあり楽しんだり、活動できるようにはなっていない。		玄関わきの花壇しか楽しめるものはない。ベランダは2階の緊急避難経路なので通行の妨げになるものは極力置かないようにしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

【千葉県】グループホーム あんしん

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

家庭的な環境の中で、ご利用者の意思や得意な事などを介護スタッフと協力しながら、能力を最大限ひきだし毎日楽しく穏やかにぬくもりのある暮らしを送って